第6号　令和5年度第2号

おかやま地域づくり通信

第8回「おかやま協働のまちづくり賞」にて大賞を受賞した『千種学区防災会』の取組の様子（避難訓練）

目次

◆第8回「おかやま協働のまちづくり賞」大賞決定
◆令和5年度の事業の紹介
・令和5年度岡山市地域協働フォーラム
・令和5年度岡山市市民活動リーダー養成講座
・ESDコーディネーター研修
・おかやまESDフォーラム2023
◆ESD・市民協働推進センターの紹介

「おかやま地域づくり通信」は岡山市で実施されている地域づくり活動や協働の取組を紹介することで、さらに多くの市民の活動への参画や協働への理解促進につなげることを目的として、岡山市（ESD・市民協働推進センター）が発行する情報誌です。

第8回「おかやま協働のまちづくり賞」大賞

「誰もが安心して住み続けることができるまちづくり」の紹介（受賞団体：千種学区防災会）

多様な主体の協働により地域の社会課題解決を目指す優れた取組を表彰する「おかやま協働のまちづくり賞」の第8回受賞取組が、決定しました。

今回は**「災害に強いまちづくり～誰も取り残されないやさしい地域を目指して～」をテーマ**に募集を行い、エントリーされた10取組の中からインターネット投票と岡山市協働推進委員会による審査を経て、大賞の1取組、入賞の4取組、奨励賞の1取組が決定しました。

市民協働フォーラムにて行われた表彰式

千種学区防災会は、平成30年7月の西日本豪雨の際、単位町内会のコミュニティハウスを避難所として開放し、多くの避難者を受け入れましたが、自分で避難できない方にどのように避難してもらうかが課題として残りました。

そこで、災害時避難行動要支援者一人ひとりの個別避難計画を立て、個別避難計画に沿った避難訓練を実施し、実際に災害が発生した時の対応を検証しました。その他にも避難所運営リーダー養成研修会や防災士の養成など、人材育成も積極的に行っています。

避難所運営リーダー養成研修会の様子

協働団体（順不同）

岡山市危機管理室、岡山市保健福祉企画総務課、東区保健センター、民生委員、ケアマネジャー、特別養護老人ホーム「あお鳩の杜」、特別養護老人ホーム「多聞荘」

災害時避難行動要支援者避難訓練の様子

「千種学区防災会」会長　伊永高明さんにインタビュー

大賞受賞時のお気持ちを教えてください。

地震や水害といった災害は必ず発生します。災害が発生した時は、まず自分の身を守ることが一番です。自分の身の安全が確保できたら、家族や身の回りにいる人の避難の手助けをしてください。

日頃から地震や、水害が発生したときなど家族や身の回りの人と話し合っておくことが素早い避難につながってきます。防災のための取り組みが岡山市全体に広がり、災害による犠牲者がでないようなまちになって欲しいと思います。

取組において大事にされていることはなんですか？

災害が発生した時は、救出、救護、避難、避難所の運営など多くのことを地域住民自らが行う必要があり、千種学区では災害時避難行動要支援者の個別避難計画の策定や、災害時は組織で活動する体制整備も行っています。

防災は、まず自分の身は自分で守ることが基本ですが、発災直後はその地域の住民同士がお互いに助け合うことが必要となります。そのため、避難所運営リーダーの養成や、防災士の養成も積極的に行い、災害に対応できる人材の育成を進めています。

今後防災活動に取り組む方へメッセージをお願いします。

平成26年から総合防災訓練や避難訓練を継続して行ってきましたが、参加者の中に若い世代の参加が少ないことに気づきました。

そこで、避難訓練とイベントを組み合わせた「防災ウォーキング」を行ったところ、中学生・高校生などと共に子育て世代の参加が多く見られるようになってきました。

気軽に参加することができる避難訓練、防災訓練を企画し、災害に強い地域づくり輪が広がることを期待しています。

第8回おかやま協働のまちづくり賞エントリー取組（申請受付順）

大規模災害に備える安心安全な二藤づくり／第二藤田学区大規模災害対策委員会

町内会の役員交代により地域防災力体制の再構築が課題となっていた藤田地区では「大規模災害対策委員会」を立ち上げ、教育機関、住民自治組織、市民団体、企業などの協働によって系統的に研修・訓練を実施しています。

奨励賞

岡山市立公民館における「防災マップづくり支援」／公益社団法人日本技術士会中国本部岡山県支部

防災・減災の専門家による市民への災害のリスクや警戒・避難への意識啓発を目的として、公民館事業「まち歩きによる防災マップづくり」の支援ボランティアを行っています。

入賞

地域連携で防災力アップ～顔の見えるコミュニティが安心・安全の街をつくる～／出石地区自主防災会連合会

コミュニティが希薄とされる中心市街地において、地域全体で防災力を高めるため地域住民やマンション居住者、行政や学校が協働し、防災知識の共有や防災減災訓練を実施しています。

入賞

地域と日常的に防災を考える「1キロ防災」／一般社団法人TOCOL

岡山駅中心部において、防災を自分事としてイメージできる最適なサイズを1キロと考え、意識の違いや温度差を持った人たちも「やってみよう！」と思える地域の特性に合わせた防災事業を企画し、実施しています。

岡輝災害時要配慮者避難シミュレーションプロジェクト／岡輝ケアカフェ

個別避難計画作成が進む中、要配慮者数と福祉避難所受け入れ人数の違い、マンパワーや環境整備の状況と課題を知り、要配慮者の避難先を増やしていく取組みを行っています。

親子で楽しく学防災！上道防災マルシェ／社会福祉法人第2まこと会

昨今の災害への危機感から、浮田地区では地域のレジリエンスを高め相互扶助できる体制づくりを目標に、地元企業や消防団をはじめとした地域住民による「防災マルシェ」をはじめて開催しました。

いちのみや若者防災ボランティアネットワーク／岡山県立岡山一宮高等学校

若者の防災活動と人材育成に着目し、こども園園児から高校生を対象とした防災教室を開催しています。若者同士が交流することで、一宮地域の防災ボランティアネットワークづくりと防災力の向上を目指しています。

入賞

災害を見据えた繋がり作り『乳幼児から高齢者まで取り残されない地域へ』／旭竜学区安全・安心ネットワーク

学区全体で10年前より防災訓練を実施し、住民が防災についての学びをアップデートしています。また講座を通して外国人や障がい者、乳幼児から高齢者までいざという時に声をかけ、助け合える関係性を作っています。

ひなんピング～医療的ケアが必要な子どもとその家族のための避難支援ネットワーク／特定非営利活動法人輝くママ支援ネットワークぱらママ

災害時に医療的ケアが必要な子どもと支援者をつなぐ個別避難計画システムの開発と検証を行っています。また定期的な茶話会やワークショップを実施しながら当事者と支援者のコミュニティ作りも行っています。

入賞

今回エントリーされた10取組のすべてがすばらしい内容であり、岡山市の防災力の向上を実感する結果となりました。今後、さらなる飛躍・発展が期待されます。

※各取組の詳細はウェブサイト「つながる協働ひろば（右の二次元コード）」からご覧ください。

令和5年度岡山市地域協働フォーラム

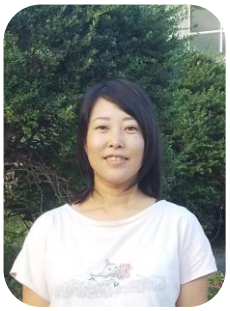
おかやま地域活動事情～大切なまちの資源に新たな価値を生み出そう！～

　岡山県内には、自然、歴史、人材などの身近な資源を生かし、魅力あふれる地域づくりにつなげている取組がたくさんあります。このフォーラムでは、それらの実践者から工夫や苦労などを聞き、あらためて自分たちの地域にある資源に目を向け、これからの地域づくり活動に生かしていく方法を考えました。

はじめに講師の吉川幸さん（岡山大学准教授）による基調講演が行われました。吉川さんが実践されている「地域参画型学習」の観点から「地域の魅力の種の見つけ方と育て方」や「地域ぐるみの人づくりに大切な『ありのままを知る・伝えるコミュニケーション』」についてお話しいただきました。

続いて岡山県内で地域の資源を上手に活用されている3つの事例を発表していただきました。

「漱石ロード活性化会議」の小泉真さんから、地域の歴史を新たな名物・商品につなげた経緯や公民館等との連携の効果をご紹介いただきました。
小泉さんが町おこしで特に大切にされているポイントは「継続」と「感謝」とのことでした。



瀬戸内市裳掛（もかけ）地区「もかけこどもひろば」の山﨑佳沙さんからは、移住者ならではの視点と発想を生かした様々な取組とその工夫をご紹介いただきました。「地域のために動きたいと思っている人」を地域の資源・財産と捉え、活躍の機会を提供することの重要性を教えていただきました。

久米南町下籾地区「楽じゃ！もむら暮らし」の岸浩文さんからは、中山間地域の特徴をほかにはない強みに変えて、交流人口の増加につなげている取組をご紹介いただきました。
一時期は50%を超えていた高齢化率を40%以下まで低下させた定住・就農支援の取組と集落の未来を見据えた戦略には学ぶべきポイントが溢れていました。

最後に登壇者と参加者がいっしょになって地域資源の見つけ方や生かし方などについて、自由なディスカッションを行い、和やかな雰囲気のもとで閉会しました。
アンケートでは「発表者の熱意と姿勢が伝わってきた。具体的で貴重な情報が得られた。」や「地域の活動家が順風満帆というわけではないのだなと感じました。自分にはできないと思う前にやってみる、それを続けていくことが大切ですね。」など、好意的な感想が多く寄せられ、充実した時間を提供できたことが確認できました。

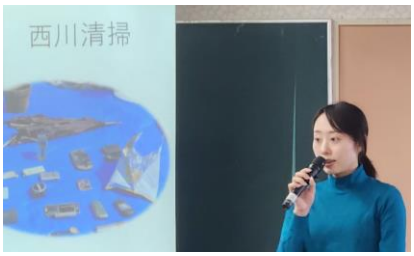
令和5年度市民活動養成リーダー養成講座

ボランティア体験 in 西川エリア　～まちを彩るキャンドル作り～

「SDGs」「持続可能な地域づくり」などの言葉を耳にしている高校生を対象に、12月17日(日)に講座を開催しました。「NPO法人タブラ ラサ」「一般社団法人ぷらっと西川」の皆さんから、西川緑道公園エリアでの活動の取組を聞き、廃棄されるキャンドルをもう一度生まれ変わらせるリサイクルキャンドル作りを体験しました。

知る

各団体から西川緑道公園エリアの活動内容や地域活動の魅力などをお話いただきました。継続のポイントは「楽しみながら活動に参加すること」。



作る

キャンドル作りでは団体のスタッフのサポートのもと、リサイクルの過程を学びながら楽しく取り組みました。

話す

団体の皆さんとの交流とキャンドル作りを通して、ボランティアについて考え、地域と自分との関わりについて話し合いました。

市民活動団体対象　助成金・補助金　申請書の書き方講座

助成金・補助金制度の活用は市民活動を活発にするための手段として有効ですが、助成元の主旨に合っていなかったり、活動内容が正しく伝わらなければ採択されません。助成金の基礎を理解し、事業の内容に沿った申請書の書き方、活動内容が論理的でわかりやすく審査員に伝わるポイントを学びました。

講師　高田佳奈さん(公益社団法人岡山県文化連盟主任・日本ファンドレイジング協会認定ファンドレイザー)

第1回:申請の基礎知識　7月8日(土)

「助成金・補助金申請は活動の価値を言語化し、共感と活動資金を得ること」として、助成金・補助金のメリットやデメリット、助成事業は「やりたい事業」ではなく、課題や背景に裏付けられた「やるべき事業」であることをお話しいただきました。

第2回:申請の書き方実践編　7月22日(土)

実際に申請書を提出する際に助成金審査員が見ているポイントを教えていただき、ワークショップでは各グループで自団体の強みや起こしたい変化、他団体のつながりなどを書き出し、それらを相手に伝えるための１分間の「エレベータートーク」を実践しました。

SDGs・ESDの啓発事業

ESDコーディネーター研修（企画書作成編）
～SDGsを視野に入れた地域づくりのために～

ESDコーディネーター研修とは？

岡山ESDプロジェクトの重点取組の1つである「人材育成」の一環として、ESDを推進するために、グローバルな視点を持ちながら、地域を舞台とした課題解決に向けた学び合いや活動の場を企画・実施するとともに、様々な人や団体をつなぐ人材の育成を目指しています。

◎研修のねらい

わかる
持続可能な社会づくりに向けた学びや活動に必要な視点

つくる
ESD・SDGsの視点を取り入れた企画書の作成

つながる
多様な主体との連携ができる

◎研修の流れ

Step1
ESD・SDGsとは？～実践事例から考える～

Step2
企画書づくりに関する個別相談会

Step3
グループで共有しながら企画意図と概要書の作成

Step4
企画発表とフィードバック、実践に向けて

どんな人が参加しているの？

公民館職員や市民活動団体スタッフ、学校や企業のSDGs推進担当者など、持続可能な地域づくりのために、多様な組織の連携や協働のコーディネートの役割を担う人が参加しています。また、ESDコーディネーター研修修了生と研修受講予定者が集まる交流会を開催し、お互いの近況報告や、新たなつながりづくりも行っています。

参加者の声

- 自分自身がやりたいことをESD・SDGsの観点に落とし込むことで説得力が増しました。
- 自社の課題に対して協力者が現れたこと。つながりができました。

岡山ESDプロジェクトとは

岡山地域において、ESDに関する取組を行っている関係機関や組織等の連携を強化して、地域の特性に応じた効果的なESDを推進することにより、「持続可能な社会づくり」に幅広く広域的に貢献していく活動です。

プロジェクトの詳細については「おかやまSDGs・ESDなび」をご覧ください

SDGs・ESDの啓発事業

おかやまESDフォーラム2023

おかやまESDフォーラム2023では、ESD岡山アワードを受賞した団体による世界の優良事例の紹介や、岡山県内の中高生の取組発表に加え、登壇者と参加者との意見交換や交流の場を設けました。第１部ではESD岡山アワードの表彰式と受賞団体による取組発表が行われました。第９回を迎えたESD岡山アワードは世界56ヵ国から108件の応募があり、厳正な審査を経て２つの取組が受賞事業に選ばれました。

受賞取組
マイクロ・ネットワークス（スペイン王国）

受賞取組
グリーン・スクール（チュニジア共和国）

第２部前半では中高生によるESDの取組発表がありました。情報収集により分析がしっかりと具体化され、地域に理解を得ることでより効果的な取組みが出来ていると高く評価されていました。

中高生による取組発表グループ
（※取組発表順）

- 高島公民館「高島地域づくり隊」（岡山市）
- 岡山県立邑久高等学校（瀬戸内市）
- 岡山県立新見高等学校（新見市）
- 倉敷市立玉島高等学校（倉敷市）

各グループからの取組発表

各取組への応援メッセージ

登壇者と参加者による意見交換会

第２部後半では登壇者と参加者が混ざり、グループで意見交換会を行いました。「若者の社会参画」をテーマに、意識づくり・情報発信、参加機会の充実、参加の後押しの３つの項目について話し合われました。（※以下は当日の意見を一部抜粋）

【意識づくり・情報発信】
- 家族や友人など親しい人からの働きかけ
- チラシや手紙は思いを伝え、SNSは情報を得やすいメリットがある

【参加機会の充実】
- 学校単位でボランティア活動をする
- 若者が公民館で高齢者にスマホ教室を開催する
- 若者にどんなことをやってみたいかアンケートを実施する

【参加の後押し】
- 自分たちの得意なことや好きなことだと行きたくなる
- ボランティア活動に参加するまでのハードルが高いので、参加した人が周りに広めていく

各グループからの意見発表

フォーラムの詳細についてはウェブサイト（右の二次元コード）よりご覧ください

協働（きょうどう）のコーディネート機関「ESD・市民協働推進センター」をご存じですか？

ESD・市民協働推進センターは「岡山市協働のまちづくり条例」の第8条に規定された「多様な主体をつなぎ協働を推進するコーディネート機関」です。
センターは私を含め4名で運営しています。

センター長　高平　亮

「協働」ってどういう意味？

平成28年に改正された「岡山市協働のまちづくり条例」では、「同じ目的を達成するために、互いを尊重し、対等の立場で協力して共に働くこと」と定義されています。協働の主体は行政とNPOだけでなく、住民自治組織（町内会など）、営利事業者、学校など、地域の課題解決に取り組むすべての個人と組織となっています。

コーディネーター
戸田　瑠美子

協働の「コーディネート」って具体的に何をしてくれるの？

ESD・市民協働推進センターでは、協働に関する相談を日常的に受付しています。NPOなどの紹介はもちろんのこと、内容によっては、テーマに関連のある団体、部署などを集めて、情報共有や解決策を考えるための「課題解決ワークショップ」を実施します。
ワークショップの結果、協働による具体的な解決策が生まれた場合は「市民協働推進事業」や「ニーズ調査事業」などの補助制度の申請をお手伝いします。申請が採択され、事業を実施することになれば、協働する団体や行政とのコミュニケーションの仲介、事業の進捗確認など、様々な方法で事業の目標達成を支援します。

コーディネーター
前野　泰子

どんな相談にのってくれるの？

NPO（法人格を問わず）からの岡山市への協働の提案が最も多いですが、最近では「SDGs」の普及もあって営利事業者からのご相談も増えています。私たちも皆さんの関心事や地域の実情を知りたいので、どのようなことでもお気軽にご相談ください！
ESD・市民協働推進センターは市役所本庁舎の2階（市民協働企画総務課内）にあり、電話やメールでもご相談いただけます。（電話番号・メールアドレスは以下をご参照ください。）

サポートスタッフ
森下　尚子

発行日：令和6年2月28日
発行元：ESD・市民協働推進センター
〒700-8544　岡山市北区大供一丁目1-1
岡山市役所 本庁舎2階　市民協働企画総務課内
TEL：086-803-1062　FAX：086-803-1872
E-mail：esd-smc@googlegroups.com

「つながる協働ひろば」では岡山市内の協働の取組支援情報や様々な団体の活動内容、協働の取組などを紹介しています。